

(様式第9)

滋医大病 2-0-2号
平成 21年10月 1日

厚生労働大臣 殿

滋賀医科大学医学部附属病院
病院長 柏木 厚

滋賀医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	医科 64.2人	歯科 7.5人
--------	----------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照 (様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照 (様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	197人	120.9人	317.9人	看護業務補助	5人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	7人	11人	理学療法士	10人	臨床検査 衛生検査	臨床検査技師 33人
薬剤師	21人	6.5人	27.5人	作業療法士	5人		衛生検査技師 1人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人		そ の 他 0人
助産師	13人	2人	15人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	488人	41.2人	529.2人	臨床工学技士	5人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	1人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	1人	1人	2人	歯科技工士	1人	事務職員	48人
管理栄養士	5人	3人	8人	診療放射線技師	25人	その他の職員	23人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	465.2人	5.0人	470.2人
1日当たり平均外来患者数	1210.9人	47.3人	1258.2人
1日当たり平均調剤数	981.6剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
・インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白質の測定	有・ <input type="radio"/> 無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・CTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	139人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下肝部分切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・重粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・ ³¹ P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケカルフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1人
・神経芽腫のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・ <input type="radio"/> 無	人
・膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
・悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザ冠動脈形成術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input type="radio"/> 無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・超音波骨折治療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input type="radio"/> 無	人
・X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/> 無	人
・膀胱水圧拡張術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下直腸固定術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨移動術による関節温存型再建	有・ <input type="radio"/> 無	人
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	7人
・自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・先天性難聴の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・RET遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・角膜ジストロフィの遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	人
・強度変調放射線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・マイクロ波子宮内膜アブレーション	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
・抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
・光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
・大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術支援	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block (MAB) 治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
・副甲状腺内活性型ビタミンD (アナログ) 直接注入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡補助下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援	有・ <input type="radio"/> 無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	23人	・モヤモヤ病（ウイルス動脈輪閉塞症）	10人
・多発性硬化症	19人	・ウェゲナー肉芽腫症	4人
・重症筋無力症	30人	・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	75人
・全身性エリテマトーデス	96人	・多系統萎縮症	21人
・スモン	2人	・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	2人
・再生不良性貧血	21人	・膿疱性乾癬	7人
・サルコイドーシス	38人	・広範脊柱管狭窄症	10人
・筋萎縮性側索硬化症	14人	・原発性胆汁性肝硬変	32人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	42人	・重症急性膵炎	7人
・特発性血小板減少性紫斑病	47人	・特発性大腿骨頭壊死症	45人
・結節性動脈周囲炎	13人	・混合性結合組織病	14人
・潰瘍性大腸炎	324人	・原発性免疫不全症候群	0人
・大動脈炎症候群	10人	・特発性間質性肺炎	4人
・ビュルガー病	5人	・網膜色素変性症	17人
・天疱瘡	13人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	26人	・原発性肺高血圧症	2人
・クローン病	127人	・神経線維腫症	11人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	6人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	1人
・パーキンソン病関連疾患	56人	・特発性慢性肺血栓栓症（肺高血圧型）	0人
・アミロイドーシス	4人	・ライソゾーム病（ファブリー【Fabry】病）含む	3人
・後縦靭帯骨化症	53人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・ハンチントン病	4人		

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週一回を原則としている。	
剖検の状況	剖検症例数 32 例	剖検率 14 %

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元	
イオンチャネル病としての遺伝性不整脈の遺伝型・表現型関連の研究	堀江 稔	循環器内科	4,400	補 委	文部科学省科学研究費補助金
循環器疾患におけるイオンチャネル病に関する研究	堀江 稔	循環器内科	1,100	補 委	文部科学省科学研究費補助金
致死性遺伝性不整脈疾患の遺伝子診断と臨床応用	堀江 稔 (分担)	循環器内科	3,500	補 委	厚生労働科学研究費補助金
虚血性心疾患でのLp-PLA2濃度・活性・遺伝子多型と冠動脈プラーク組成の検討	山本 孝	循環器内科	1,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
統合的人体シミュレーションを目指したパーソナル心臓の機能モジュール化の研究	芦原 貴司 (分担)	循環器内科	500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
スパイラル・リエントリーの抜錨による致死性不整脈防止技術の開発	芦原 貴司 (分担)	循環器内科	300	補 委	文部科学省科学研究費補助金
SCN5A遺伝子異常陰性のブルガダ症候群における遺伝子異常の同定と機能解析	伊藤 英樹	循環器内科	1,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
慢性閉塞性肺疾患の発症機序と体格に関する研究一画像解析と遺伝子多型解析の融合一	中野 恭幸	呼吸器内科	450	補 委	文部科学省科学研究費補助金
GOPDのphenotypingに関する包括的研究	中野 恭幸	呼吸器内科		補 委	文部科学省科学研究費補助金
インターロイキン22を標的とした炎症性腸疾患に対する分子標的療法確立の基礎検討	安藤 朗	消化器内科	700	補 委	文部科学省科学研究費補助金
小腸粘膜上皮の脂肪酸直接刺激によるクローン病免疫応答異常の解明	辻川 知之	消化器内科	1,400	補 委	文部科学省科学研究費補助金
循環器疾患等総合研究事業：「2型糖尿病患者のQOL、血管合併症及び長期予後改善のための前向き研究(JDC Study)」	柏木 厚典	内分泌代謝内科	300	補 委	厚生労働科学研究費補助金
メタボリックシンドロームにおけるアディポサイトカイン発現調節機構の解明	前川 聡	内分泌代謝内科	1,400	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ヒト肝SREBP-1c遺伝子発現を調節する新しい核蛋白の同定とその機能解析	西尾 善彦	内分泌代謝内科	1,500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
メタボリックシンドロームにおける脂肪細胞肥大化分子AP2βの役割	卯木 智	内分泌代謝内科	1,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
血糖コントロールの是正および糖尿病性血管合併症と血小板機能との関連を解明する	貴志 明生	内分泌代謝内科	1,600	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ミトコンドリアバイオジェネシスを介した新規糖尿病治療法の探索	森野 勝太郎	内分泌代謝内科	1,100	補 委	文部科学省科学研究費補助金
マクロファージにおける抗老化分子SIRT1の糖尿病発症における役割の解明と新規治療薬の開発の試み	吉崎 健	内分泌代謝内科	500	補 委	日本糖尿病財団 平成20年度研究助成金
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験	前川 聡	内分泌代謝内科	2,300	補 委	J-DOIT3(糖尿病合併症を抑制するための介入試験)
メタボリック症候群における腎障害発症機構の解明	出路 奈緒子	腎臓内科	200	補 委	第25回滋賀医科大学シンポジウム審査員特別賞
メタボリック・シンドローム関連疾患における個別化医療の実現(新規2型糖尿病関連遺伝子の同定と機能解析)	前川 聡	内分泌代謝内科	1,500	補 委	文部科学省研究振興局長
標的細胞へのピンポイント遺伝子輸送システムの開発	山川 勇	神経内科	2,000	補 委	平成20年度教育改善推進費(学長裁量経費)
運動による骨格筋トレーニング効果・糖代謝改善効果におけるmicroRNA(miRNA)の役割	森野 勝太郎	内分泌代謝内科	1,000	補 委	日本糖尿病財団 平成20年度研究助成金

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
インスリン抵抗性に伴う細胞内脂肪蓄積・ミトコンドリア異常の分子機構を解明する	森野 勝太郎	内分泌代謝内科	1,000	補委 第17回(平成)20年度小野医学研究財団奨励助成金
インスリン抵抗性に対する魚食介入の有効性及び分子機構の検討	森野 勝太郎	内分泌代謝内科	1,000	補委 三井生命厚生事業団2008年度医学研究助成
インスリン抵抗性発症におけるミトコンドリアバイオジェネシス遺伝子の役割	森野 勝太郎	内分泌代謝内科	2,000	補委 第26回(平成20年度)持田記念研究助成金
インスリン抵抗性とミトコンドリア機能異常-原因遺伝子の同定とその作用メカニズム	森野 勝太郎	内分泌代謝内科	1,000	補委 医科学応用研究財団平成20年度調査研究助成金
ミトコンドリアバイオジェネシスを介したインスリン抵抗性治療の開発	森野 勝太郎	内分泌代謝内科	1,000	補委 日本イーラリリー教育・研究助成金
メタボリックシンドロームに対するミトコンドリアバイオジェネシス・microRNA(miRNA)を介した新規治療法の探求	森野 勝太郎	内分泌代謝内科	1,500	補委 東京生化学研究会平成20年度研究奨励金
ミトコンドリアバイオジェネシスを介した新規糖尿病治療の探索	森野 勝太郎	内分泌代謝内科	3,000	補委 第40回(2008年度)内藤記念科学奨励金
高齢者の糖尿病・脂質異常症に対する魚食指導の臨床的意義-アディポネクチンを介したアプローチの試み	森野 勝太郎	内分泌代謝内科	1,000	補委 大阪ガスグループ福祉財団研究・調査助成
抗老化分子SIRT1活性化によるミトコンドリア異常の改善を目標とした慢性腎臓病への治療応用の可能性	久米 真司	腎臓内科	500	補委 CKD AWARD 2008
抗老化分子SIRT1活性化によるミトコンドリア機能異常の改善を標的とした加齢腎病変に対する新たな治療戦略の可能性	久米 真司	腎臓内科	500	補委 第14回分子腎臓研究会研究奨励賞
抗老化分子SIRT1活性調節による腎障害抑制への可能性の検討	久米 真司	腎臓内科	800	補委 文部科学省科学研究費補助金
再発小児固形腫瘍に対する塩酸ノギテカンとイホスファミド併用療法の第I/II相臨床試験	多賀 崇	小児科	500	補委 厚生労働科学研究費補助金
「難治性小児悪性固形腫瘍に対する塩酸イリノテカンの第I-II相試験」の実施に関する研究(CCT-C-1653)	多賀 崇	小児科	1,000	補委 平成20年治験推進事業
遺伝性非抱合型高ビリルビン血症の遺伝的背景の解明と診断基準の作成	丸尾 良浩	小児科	1,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
乾癬における転写因子GLISの働き及びそのNOTCHシグナルへの影響について	中西 元	皮膚科	1,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
マイクロ波応用手術支援機器と手術システムの臨床応用	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	68,770	補委 科学技術振興機構
リアルタイムMRIナビゲーションを利用した乳癌低侵襲治療システムの確立	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科	700	補委 文部科学省科学研究費補助金
乳管ネットワークを利用した、低侵襲乳癌治療法の開発と評価	村田 聡	消化器外科 乳腺・一般外科	800	補委 文部科学省科学研究費補助金
体腔鏡手術ロボティクス技術の開発研究	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	25,545	補委 文部科学省 都市エリア産学官連携促進事業
リンパ管浮腫に対する細胞移植療法の基礎的検討	塩見 尚礼	消化器外科 乳腺・一般外科	1,200	補委 文部科学省科学研究費補助金
アディポネクチンによる新しい敗血症の治療法の開発	山本 寛	消化器外科 乳腺・一般外科	2,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
マイクロ波熱凝固による癌局所療法からin vivo樹状細胞ワクチン療法への展開	川口 晃	消化器外科 乳腺・一般外科	1,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
MR画像ガイド肝腫瘍凝固治療のための変形を伴う4次元CT画像自動位置合わせ法	来見 良誠 (共同)	消化器外科 乳腺・一般外科	200	補委 文部科学省科学研究費補助金

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元	
心筋内レーザー血管新生術(TMLR)に関する研究	浅井 徹	心臓血管外科	1,798	補 委	学長裁量経費
モザイク生体弁の調査	浅井 徹	心臓血管外科	535	補 委	日本メドトロニック株式会社
HIF-1を標的とした癌分子標的治療法の開発に関する基礎研究	寺本 晃治	呼吸器外科	1,200	補 委	文部科学省科学研究費補助金
濃度勾配コラーゲンによる関節軟骨欠損修復に関する研究	松末 吉隆	整形外科	1,500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
随意的な骨形成誘導を可能にする前骨芽細胞増殖促進、アポトーシス抑制メカニズムの解析	森 幹士	整形外科	2,000	補 委	上原記念生命科学財団研究助成金
骨肉腫に発現している破骨細胞分化因子受容体(RANK)を利用した骨肉腫に対する新規治療法開発の試み	森 幹士	整形外科	450	補 委	(財)金原一郎記念医学医療振興財団研究助成金
未破裂脳動脈瘤の治療指針と個別意思決定に関する研究	野崎 和彦	脳神経外科	6,500	補 委	国立循環器病センター
ヒト腎細胞癌でマイクロRNAに制御される標的遺伝子と遺伝子ネットワークの検討	岡田 裕作	泌尿器科	1,700	補 委	文部科学省科学研究費補助金
散在性反復配列(利的遺伝子)の脱メチル化による新たなヒト精巣腫瘍発癌モデルの構築	岡本 圭生	泌尿器科	5,400	補 委	文部科学省科学研究費補助金
間質性膀胱炎に関する自己抗体の研究	成田 充弘	泌尿器科	1,300	補 委	文部科学省科学研究費補助金
尿路上皮癌診断マーカー尿中カルレティキュリンテストの開発	影山 進	泌尿器科	1,300	補 委	文部科学省科学研究費補助金
尿路上皮癌におけるPeriostinによる浸潤・転移抑制の分子機構の解明	金 哲将	泌尿器科	1,500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
カニクイザルにおけるアバستن硝子体内注射前後での前房水中のVEGF濃度変化の検討	大路 正人	眼科	2,500	補 委	滋賀医科大学教育改善推進費
インドシアニングリーンとフェムト秒レーザーによる光線力学療法の開発	大路 正人	眼科	600	補 委	文部科学省科学研究費補助金
脈絡膜上経網膜電気刺激(STS)法による人工視覚システムの臨床応用	大路 正人	眼科	2,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いた慢性疼痛の高次脳機能評価法の確立	福井 聖	ペインクリニック科	1,600	補 委	文部科学省科学研究費補助金
Dekompressor(経費的髄核摘出術用プローブ)を用いた臨床評価	新田 一仁	ペインクリニック科	286	補 委	日本ストライカー株式会社
じん肺健康診断におけるエックス線デジタル撮影画像の活用に関する研究	村田 喜代史	放射線科	10,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
フラットパネルデテクタを用いた胸部座位型超低線量CTの研究	高橋 雅士	放射線科	500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
薬剤性肺障害ウサギモデルを用いた病理組織とCT画像の対比	永谷 幸裕	放射線科	2,300	補 委	文部科学省科学研究費補助金
がん診療を標準化するための病理診断基準確立に関する研究(消化管癌の検討)	九嶋 亮治	病理学	1,000	補 委	厚生労働省がん研究助成金(国立がんセンター)
がん抑制遺伝子RB1CC1のシステム破綻による発がん機構とその制御	茶野 徳宏	臨床検査医学講座	6,300	補 委	文部科学省科学研究費補助金
消化管及び膵臓カルチノイド腫瘍における神経系中間径線維の発現様式と悪性度の検討	石田 光明	検査部	500	補 委	文部科学省科学研究費補助金

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元	
乳癌治療の成績を改善する迅速診断キットの開発と応用	茶野 徳宏	臨床検査医学講座	2,000	補 ⑤委	地域イノベーション創出総合支援事業平成20年度シーズ発掘試験
過大侵襲時における免疫修飾作用としての超短時間作用型β1遮断薬の心筋に対する効果	辻田 靖之	救急・集中治療部	1,400	補 ⑤委	文部科学省科学研究費補助金
バクテリアルトランスロケーションにおける神経原性炎症の役割	小泉 祐介	救急集中治療医学講座	1,900	補 ⑤委	文部科学省科学研究費補助金
力学的刺激による関節軟骨再生の試み	今井 晋二	リハビリテーション科	1,000	補 ⑤委	文部科学省科学研究費補助金
関節軟骨再生のための骨髄多機能幹細胞刺激装置の開発	今井 晋二	リハビリテーション科	2,500	補 ⑤委	(財)立石科学技術振興財団研究助成金
抗老化分子SIRT1による尿細管オートファジー改善を標的とした新たな食塩感受性高血圧治療戦略の構築	宇津 貴	血液浄化部	800	補 ⑤委	平成20年度ソルトサイエンス助成金
間接熱量測定による各種病態の必要エネルギー量の検討	佐々木 雅也	栄養治療部	1,000	補 ⑤委	日本静脈経腸栄養学会
小児の臨床研究推進に必要な人材育成と環境整備のための教育プログラム作成	中川 雅生	治験管理センター 小児科	15,350	補 ⑤委	厚生労働省科学研究費補助金
小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	中川 雅生	治験管理センター 小児科	1,400	補 ⑤委	厚生労働省科学研究費補助金
冠動脈開口部の発生機序および心臓外に由来する細胞の役割解明	中川 雅生	治験管理センター 小児科	1,500	補 ⑤委	文部科学省科学研究費補助金
DNA・血液サンプルおよび臨床情報の収集	中川 雅生	治験管理センター	11,400	補 ⑤委	文部科学省研究振興局長
治療過程管理を導入した横紋筋肉腫に対する新しいグループスタディの展開	太田 茂	医師臨床教育センター	200	補 ⑤委	文部科学省科学研究費補助金

小計12

計 81

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Circ J 72(1) 139-143 2008	Whole-body periodic acceleration enhances brachial endothelial function.	Matsumoto T et al.	循環器内科
J Cardiovasc Electrophysiol 19 794-799 2008	Age- and genotype-specific triggers for life-threatening arrhythmia in the enotyped long-QT syndrome.	Sakaguchi T et al.	循環器内科
Circ J 72(5) 694-699 2008	Mutation site dependent variability of cardiac events in LQT2 form of congenital long-QT syndrom.	Nagaoka I et al.	循環器内科
Circ Res 102(6) 737-745 2008	Tunnel propagation of postshock activations as a unified hypothesis for fibrillation induction and isoelectric window.	Ashihara T et al.	循環器内科
Circ J 72(5) 740-746 2008	Beneficial effect of perindopril on cardiac sympathetic nerve activity and brain natriuretic Peptide in patients with chronic heart failure.	Tsutamoto T et al.	循環器内科
Angiology 59 421-426 2008	Augmentation Index and Pulse Wave Velocity as Indicators of Cardiovascular Stiffness.	Nakae I et al.	循環器内科
Circ J 72(4) 611-617 2008	Prognostic Value of Normal Stress Myocardial Perfusion Imaging in Japanese Population.	Matsuo S et al.	循環器内科
Circ J 72(4) 563-568 2008	Impact of oxidative stress on plasma adiponectin in patients with chronic heart failure.	Tanaka T et al.	循環器内科
Eur J Heart Fail 10(4) 360-366 2008	Effect of atrial natriuretic peptide on adiponectin in patients with heart failure.	Tanaka T et al.	循環器内科
Ann Nucl Med 22 677-683 2008	Clinical significance of diastolic function as an indicator of myocardial ischemia assessed by 16-frame gated myocardial perfusion SPECT.	Nakae I et al.	循環器内科
J Pharmacol Sci 108 462-471 2008	Hydroxyzine, a First Generation H1-Receptor Antagonist, Inhibits Human Ether-a-go-go ? Related Gene (HERG) Current and Causes Syncope in Patient With the HERG Mutation.	Sakaguchi T et al.	循環器内科
Eur J Heart Fail 10(12) 1208-1214 2008	Transcardiac increase in norepinephrine and prognosis in patients with chronic heart failure.	Tsutamoto T et al.	循環器内科
Journal of Arrhythmia 24 195-199 2008	Genetic background of arrhythmogenic right ventricular dysplasia/Cardiomyopathy:Time to start asian registry !	Horie M et al.	循環器内科
Br J Pharmacol 156(2) 377-387 2009	Inhibitory actions of LY294002, a phosphatidylinositol 3-kinase inhibitor, on the human Kv1. 5 channel.	Wu J et al.	循環器内科

小計14

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Heart Rhythm 6(7) 1038-1046 2009	Adrenergic regulation of the rapid component of delayed rectifier K ⁺ current: Implications for arrhythmogenesis in LQT2 patients.	Zankov DP et al.	循環器内科
JACC(in press)	Aorto-Pulmonary Artery Dissection.	Itoh H et al.	循環器内科
Int J Cardiol (in press)	A Novel KCNH2 Mutation as a Modifier for Short QT Interval.	Itoh H et al.	循環器内科
J Asthma 45(4) 339-342 2008	Specialists play a vital role in general practitioner's prescription behavior -A Qualitative Study of Asthma Care in Japan-	Nishio C et al.	呼吸器内科
Arterioscler Thromb Vasc Biol 28(12) 2173-2179 2008	In Vivo and in vitro inhibition of monocyte adhesion to endothelial cells and endothelial adhesion molecules by eicosapentaenoic acid.	Yamada H et al.	呼吸器内科
Dig Dis Sci 53(12) 3242-3245 2008	Chemoradiation therapy followed by endoscopic submucosal dissection for esophageal cancer.	Saito Y et al.	消化器内科
World J Gastroenterol 14(33) 5154-5161 2008	Mucosal cytokine network in inflammatory bowel disease.	Andoh A et al.	消化器内科
Am J Med Sci 335(6) 495-498 2008	A Case of Castleman's Disease Complicated With Nephrotic Syndrome Due to Glomerulopathy Mimicking Membranoproliferative Glomerulonephritis.	Sugimoto T et al.	腎臓内科 内分泌代謝内科
Intern Med 47(11) 1073-1074 2008	Thoracic cavernous malformations on T2*-weighted MR images.	Maeda K et al.	神経内科
Neurosci Lett 434(3) 266-272 2008	Isolation of specific peptides that home to dorsal root ganglion neurons in mice.	Oij et al.	神経内科 内分泌代謝内科
J Clin Endocrinol Metab 93(8) 3136-3141 2008	Replication of genome-wide association studies of type 2 diabetes susceptibility in Japan.	Horikawa Y et al.	内分泌代謝内科
Hypertens Res 31(6) 1171-1176 2008	Impact of renin-angiotensin system inhibition on microalbuminuria in type 2 diabetes: a post hoc analysis of the Shiga Microalbuminuria Reduction Trial (SMART).	Shiga Microalbuminuria Reduction Trial (SMART) Group et al.	腎臓内科 内分泌代謝内科
Diabetes 57(3) 791-795 2008	Association of CDKAL1, IGF2BP2, CDKN2A/B, HHEX, SLC30A8, and KCNJ11 with susceptibility to type 2 diabetes in a Japanese population.	Omori S et al.	内分泌代謝内科
Rheumatol Int 28(12) 1283-1284 2008	Acute interstitial nephritis associated with etanercept.	Sugimoto T et al.	腎臓内科 内分泌代謝内科

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Rheumatol Int 28(12) 1285-1286 2008	A case of post-streptococcal reactive arthritis and acute nephritis after bacterial endophthalmitis due to Streptococcus pyogenes.	Sugimoto T et al.	腎臓内科 内分泌代謝内科
J Am Coll Cardiol 52(6) 417-424 2008	Marine-derived n-3 fatty acids and atherosclerosis in Japanese, Japanese-American, and white men: a cross-sectional study.	Sekikawa A et al.	内分泌代謝内科
Nat Genet 40(9) 1098- 1102 2008	SNPs in KCNQ1 are associated with susceptibility to type 2 diabetes in East Asian and European populations.	Unoki H et al.	内分泌代謝内科
Diabetes 57(10) 2644- 2651 2008	Muscle-specific IRS-1 Ser→Ala transgenic mice are protected from fat-induced insulin resistance in skeletal muscle.	Morino K et al.	内分泌代謝内科
Nat Genet 40(9) 1092- 1097 2008	Variants in KCNQ1 are associated with susceptibility to type 2 diabetes mellitus.	Yasuda K et al.	内分泌代謝内科
Diabetes Res Clin Pract 82 Suppl 1 S54- S58 2008	Clinical impact of reducing microalbuminuria in patients with type 2 diabetes mellitus.	Araki S et al.	腎臓内科 内分泌代謝内科
Endocrinology 150(4) 1654-1661 2009	Transcription factor activating protein-2beta: a positive regulator of monocyte chemoattractant protein-1 gene expression.	Kondo M et al.	内分泌代謝内科
Biochem Biophys Res Commun 379(4) 861- 865 2009	Combined effect of oxidative stress-related gene polymorphisms on atherosclerosis.	Katakami N et al.	内分泌代謝内科
Atherosclerosis 205(2) 404-412 2009	Soy phosphatidylcholine inhibited TLR4-mediated MCP-1 expression in vascular cells.	Ishikado A et al.	内分泌代謝内科
Leukemia Lymphoma 49(4) 734-739 2008	Favourable outcomes in children with diffuse large B-cell lymphoma treated by a short-term All-like regimen: a report on the NHL960 study from the Japanese Childhood Cancer and Leukemia Study Group.	Tsurusawa M et al.	小児科
J Clin Endocrinol Metab 93 4261-4267 2008	Transient congenital hypothyroidism caused by biallelic mutations of the dual oxidase 2 gene in Japanese patients detected by a neonatal screening program.	Maruo Y et al.	小児科
Basic Clin Pharmacol Toxicol 103 131-136 2008	Effect of D256N and Y483D on propofol glucuronidation by human uridine 5'-diphosphate glucuronosyltransferase.	Takahashi H et al.	小児科
J Pediatr Gastroenterol Nutr 46 308-311 2008	Conformational change of UGT1A1 by a novel missense mutation(p.L131P) causing Crigler-Najjar syndrome type I.	Maruo Y et al.	小児科
J Child Neurol 24 275- 286 2009	Experimental neuronal migration disorders following the administration of ibotenate in hamsters: the role of the subventricular zone in the development of cortical dysplasia.	Sawai C et al.	小児科

小計14

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Genetics 74 288-290 2008	CDKL5 disruption by t(X;18) in a girl with West syndrome.	Nishimura A et al.	小児科
Congenital Anomalies 48 97-100 2008	Large congenital melanocytic nevi presenting with lissencephaly with an absent corpus callosum.	Takano T et al.	小児科
Br J Dermatol 158(2) 415-417 2008	Dermoid cyst with magnetic resonance image of sack-of-marbles.	Fujimoto N et al.	皮膚科
Contact Dermatitis 60(2) 110-113 2009	Photosensitivity with eosinophilia due to ambroxol and UVB.	Fujimoto N et al.	皮膚科
Skin Cancer 23(2) 175- 179 2008	粘液線維肉腫の1例	藤本 徳毅 他	皮膚科
Am J Surgery 195(6) 854-860 2008	Thoracoscopy-assisted magnetic resonance guided microwave coagulation therapy for hepatic tumors.	Shiomi H et al.	消化器外科 乳腺一般外科
Magn Reson Med Sci 7(3) 105-112 2008	Correlation between high field MR images and histopathological findings of rat transplanted cancer immediately after partial microwave coagulation.	Murakami K et al.	消化器外科 乳腺一般外科
IEICE Transactons on Information and Systems E91-D(1) 132-144 2008	Parzen-window based normalized mutual information for medical image registration.	Rui XU et al.	消化器外科 乳腺一般外科
Cancer Chemother Pharmacol 61(4) 587- 594 2008	Expression level of thymidylate synthase mRNA reflects 5-fluorouracil sensitivity with low dose and long duration in primary colorectal cancer.	Okumura K et al.	消化器外科 乳腺一般外科
肥満研究 14(2) 174- 179 2008	腹部外科手術の周術期における血中アディポネクチンの測定意義について	山本 寛 他	消化器外科 乳腺一般外科
胆と膵 Vol.29 臨時増 刊特大号・ 1127-1138 2008	MRI術中ナビゲーションによる肝癌治療	来見 良誠 他	消化器外科 乳腺一般外科
J Clin Invest 118(5) 1700-1711 2008	Antibody association with HER-2/new-targeted vaccine enhances CD8+ T cell responses in mice through Fc-mediated activation of DCs.	Peter S. Kim et al.	共同 消化器外科 乳腺一般外科
日本腹部救急医学会 雑誌 28(6) 809-812 2008	鈍的肝損傷および脾損傷に対する治療法の選択—手術・IVRの位置づけ—	仲 成幸 他	消化器外科 乳腺一般外科
日本臨牀・日本臨牀社 66 251-255 2008	CD-DST法の評価 胃癌—基礎臨床研究のアップデート—	内藤 弘之 他	消化器外科 乳腺一般外科

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胸部外科 6(10) 834-835 2008	胸部外科の指針	鈴木 友彰 他	心臓血管外科
General Thoracic and Cardiovascular Surgery 56(7) 324-329 2008	Early and midterm outcome after off-pump coronary artery bypass grafting in patients with poor left ventricular function compared with patients with normal function.	Suzuki T et al.	心臓血管外科
Ann Thorac Surg 85(6) 2130-2132 2008	Giant Coronary Artery Aneurysm in the Left Main Coronary Artery: A Novel Surgical Procedure.	Matsubayashi K et al.	心臓血管外科
Heart Surg Forum 11(4) E213-E217 2008	Early and Midterm Results of Off-Pump Coronary Artery Bypass Grafting without Patient Selection.	Suzuki T et al.	心臓血管外科
Internal Medicine 47 1605-1608 2008	Perforated Mitral Valve Aneurysm Associated with Libman-Sacks Endocarditis.	Tomoyuki T et al.	心臓血管外科
日本アフェレンス学会雑誌 28(2) 163-166 2009	進行再発肺がん・乳がんに対する腫瘍抗原MUC-1を標的とした樹状細胞ワクチン療法	寺本 晃治 他	呼吸器外科
Osteoarthritis Cartilage 16 1083-1091 2008	A novel exogenous concentration-gradient collagen scaffold augments full-thickness articular cartilage repair.	Mimura T et al.	整形外科
J Neurosurg Spine 9 488-492 2008	Percutaneous transthoracic fenestration of an intramedullary neurenteric cyst in the thoracic spine with intraoperative magnetic resonance image navigation and thoracoscopy. Case report.	Takahashi S et al.	整形外科
Arch Orthop Trauma Surg 129(9) 1279-1285 2008	The recovery of 5-HT transporter and 5-HT immunoreactivity in injured rat spinal cord.	Saruhashi Y et al.	整形外科
Cancer Sci 99 2170-2176 2008	Conditioned media from mouse osteosarcoma cells promote MC3T3-E1 cell proliferation using JAKs and P13-K/Akt signal crosstalk.	Mori K et al.	整形外科
Expert Rev Anticancer Ther 8 151-159 2008	Liposomal muramyl tripeptide phosphatidyl ethanolamine: a safe and effective agent against osteosarcoma pulmonary metastases.	Mori K et al.	整形外科
日本整形外科学会雑誌 82 885-894 2008	関節軟骨損傷の治療戦略	松末 吉隆	整形外科
最新整形外科学体系1 93-98 2008	関節軟骨	今井 晋二 他	整形外科
リウマチ科 40 535-538 2008	TNF阻害薬は強直性脊椎炎の進行を抑制するか？	森 幹士	整形外科

小計14

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
中外医学社 188-203 2008	前頭葉・側頭葉の脳動静脈奇形 脳神経外科エキスパート 前頭葉・側頭葉	野崎 和彦	脳神経外科
永井書店 474-482 2008	脳動静脈奇形 外科的摘出術と画像診断(Spetzler- Martin分類)見て診て学ぶ脳卒中の画像診断	野崎 和彦	脳神経外科
脳卒中の外科 36 421-426 2008	脳幹部海綿状血管腫に対する手術手技	高木 康志 他	脳神経外科
日本バイオレオロジー 学会誌 22 51-58 2008	脳動脈瘤の成因-実験的脳動脈瘤誘発動物モデルを用 いたその発生機序:NOを中心に-	福田 俊一 他	脳神経外科
Am J Rhinol Allergy 23(2) 197-199 2009	Endoscopic ligation of the sphenopalatine artery and the maxillary artery for the treatment of intractable posterior epistaxis.	Seno S	耳鼻咽喉科
Mol Reprod Dev 76(3) 270-277 2009	Functional assessment of centrosomes of spermatozoa and spermatids microinjected into rabbit oocytes.	Tachibana M et al.	母子・女性診療 科
Am J Reprod Immunol 60(6) 534-540 2008	Development of human Graffian follicles following transplantation of human ovarian tissue into NOD/SCID/gammacnull mice.	Terada Y et al.	母子・女性診療 科
Syst Biol Reprod Med 54(3) 135-142 2008	Assessing centrosomal function of infertile males using heterologous ICSI.	Yoshimoto-Kakoi T et al.	母子・女性診療 科
Asian J Androl 10(4) 561-568 2008	Intramanchette transport during primate spermiogenesis: expression of dynein, myosin Va, motor recruiter myosin Va, VIIa-Rab27a/b interacting protein, and Rab27b in the manchette during human and monkey spermiogenesis.	Hayasaka S et al.	母子・女性診療 科
Fertil Steril 90(4 Suppl) 1523-1527 2008	Selective accumulation of PpIX and photodynamic effect after aminolevulinic acid treatment of human adenomyosis xenografts in nude mice.	Suzuki-Kakisaka H et al.	母子・女性診療 科
Fertil Steril 90(4 Suppl) 1240-1242 2008	Uterine relaxation by sacral surface electrical stimulation on the day of embryo transfer.	Fujii O et al.	母子・女性診療 科
日本泌尿器科学会雑 誌 99(7) 733-736 2008	骨盤内を占拠するまで拡張した左巨大尿管に発生した尿 管癌の1例	牛田 博	泌尿器科
泌尿器科紀要 54(11) 749-752 2008	回腸新膀胱造設術後の尿道再発に対する虫垂利用自己 導尿管型尿路再変向術の経験	牛田 博	泌尿器科
Int J Oncol 32(1) 161- 169 2008	Role of alternative splicing of periostin in human bladder carcinogenesis.	CHUL JANG KIM	泌尿器科

小計14

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Ophthalmol 52(2) 99-107 2008	Photodynamic therapy with verteporfin in Japanese patients with subfoveal choroidal neovascularization secondary to age-related macular degeneration (AMD):results of the Japanese AMD Trial (JAT) extension.	Ohji M	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 246(8) 1087-1095 2008	Fundus autofluorescence after full macular translocation surgery for myopic choroidal neovascularization.	Ohji M	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 246(10) 1379-1381 2008	Vascular endothelial growth factor in fellow eyes of eyes injected with intravitreal bevacizumab.	Sawada O	眼科
Jpn J Ophthalmol 52(4) 269-276 2008	Foveal anatomical status and surgical results in vitrectomy for myopic foveoschisis.	Ohji M	眼科
Ophthalmic Surg Lasers Imaging 40(2) 135-140 2009	Comparison of macular thickness between Cirrus HD-OCT and Stratus OCT.	Kakinoki M	眼科
眼科臨床紀要 2(3) 219-223 2009	滋賀医科大学附属病院における15年間の未熟児網膜症の検討	村木 早苗	眼科
日本ペインクリニック学会誌 15(3) 357 2008	MRスペクトロスコピー(MRS)を利用した幻肢痛の局所脳機能評価	岩下 成人 他	ペインクリニック科
日本ペインクリニック学会誌 15(3) 348 2008	脱出型椎間板ヘルニアに対する椎間板加圧注入療法後の治療効果とGd-MRI画像所見について	木田 英樹 他	ペインクリニック科
Eur J Radiol 67(3) 536-540 2008	Gelatin microspheres: initial clinical experience for the transcatheter arterial embolization.	Nitta N et al.	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol 31(2) 359-366 2008	Is the use of fullerene in photodynamic therapy effective for atherosclerosis?	Nitta N et al.	放射線科
Hepatol Res 38(10) 1050-1053 2008	Cisplatin-conjugated Gelpart: initial study in vitro.	Ohta S et al.	放射線科
Acad Radiol 15(12) 1505-1512 2008	Evaluation of computer-aided diagnosis(CAD) software for the detection of lung nodules on multidetector.	Hirose T et al.	放射線科
Radiat Med 26(10) 627-635 2008	Ultra-low-dose computed tomography system with a flat panel detector: assessment of radiation dose reduction and spatial and low contrast resolution.	Nagatani Y et al.	放射線科
AJR Am J Roentgenol 192(2) 408-416 2009	CT diagnosis of acute mesenteric ischemia from various causes.	Furukawa A et al.	放射線科

小計14

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口腔診断学会雑誌 21(2) 297-300 2008	上顎洞に発生した含菌性嚢胞に対して鼻内視鏡を用いて手術した1例	肥後 智樹 他	歯科口腔外科
日本口腔診断学会雑誌 22(1) 113-116 2009	暫間補綴にテンポラリーインプラントを使用した1例	肥後 智樹 他	歯科口腔外科
日本口腔インプラント学会雑誌 22(2) 136-140 2009	上顎洞内に迷入したインプラントを内視鏡下鼻内手術により摘出した1例	肥後 智樹 他	歯科口腔外科
病理と臨床 26(8) 823-832 2008	比較的稀あるいは今後注目すべき炎症性疾患 Collagenous colitis 日本人症例の特徴	松原 亜季子 他	病理部
Oncology Reports 21(1) 113-117 2009	Claudin expression in rectal well-differentiated endocrine neoplasms(carcinoid tumors).	Ishida M et al.	検査部
Dig Dis Sci 54(3) 614-620 2009	Re-evaluation of histogenesis of gastric carcinomas: a comparative istopathological study between Helicobacter pylori-negative and H. pylori-positive cases.	Kakiniki R et al.	検査部
Diagn Cytopathol 36(8) 576-580 2008	Cytological features of myxoid adrenocortical adenoma with a pseudoglandular component: a case report with differential diagnostic considerations.	Ishida M et al.	検査部
J Cutan Pathol 35(10) 926-930 2008	Immunohistochemical demonstration of D2-40 in basal cell carcinomas of the skin.	Ishida M et al.	検査部
臨床病理 56(6) 455-458 2008	顔面に生じた内分泌分化を示す皮膚原発粘液癌の一例	石田 光明 他	検査部
人工臓器 37(1) 52-55 2008	劇症肝不全と人工肝臓	江口 豊	救急集中治療医学講座
Crit Care Med 36(4 Suppl) S198-S203 2008	Pathophysiology of septic acute kidney injury: what do we really know?	Saotome T et al.	救急集中治療医学講座
日本アフェレンス学会雑誌 27(3) 211-215 2008	肝不全におけるPlasma Dia-Filtration(PDF)-Plasma Filtration with Dialysis-療法	江口 豊	救急集中治療医学講座
体液・代謝管理	急性期DIC診断基準の功罪	江口 豊	救急集中治療医学講座
Thromb Haemost 100(6) 1099-1105 2008	Clinical course and outcome of disseminated intravascular coagulation diagnosed by Japanese Association for Acute Medicine criteria.	Eguchi Y et al.	救急集中治療医学講座

小計14

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Hand Surg 33B 90-91 2008	Closed rupture of a flexor tendon of unknown aetiology.	Imai S et al.	リハビリテーション科
Scand J Plastic Reconstr Surg Hand Surg 42 328-330 2008	Intrasynovial lipoma causing trigger wrist and carpal syndrome.	Imai S et al.	リハビリテーション科
Am J Physiol Renal Physiol 296(1) F118-F126 2008	Structural and functional changes in the kidneys of high-fat diet-induced obese mice.	Deji N et al.	血液浄化部
Hemodial Int 12 (4) 499-500 2008	Does empiric treatment with fluoroquinolones delay the diagnosis of tuberculosis in patients with hemodialysis?	Osawa N	血液浄化部
Int J Cardiol 130(3) e100-e101 2008	Constrictive pericarditis as an emerging manifestation of hyper-IgG4 disease.	Sugimoto T et al.	血液浄化部
Biochem Biophys Res Commun 380(1) 44-49 2009	Exendin-4 has an anti-hypertensive effect in salt-sensitive mice model.	Hirata K et al.	血液浄化部
Surgery Today 38 862-865 2008	The Rapid Growth of Intraluminal Tumor Metastases at the Intestinal Wall Sites Damaged by Obstructive Colitis Due to Sigmoid Colon Cancer:Report of a Case.	Mekata E	化学療法部
日本小児臨床薬理学会雑誌、21 105-107 2008	小児科病棟における医薬品適応外使用の問題点	藤田 彩子 他	治験管理センター 薬剤部
日本小児臨床薬理学会誌 21 95-98 2008	医療者側から見た治験参加のモチベーション	大野 雅樹 他	治験管理センター 小児科

小計9

計121

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 柏木 厚典
管理担当者氏名	総務課長 岩阪 豊 医療サービス課長 一井 信吾 病院管理課長 大城 雅彦 薬剤部長(代理) 柏木 厚典 放射線部長 村田 喜代史

		保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録		医療サービス課 (診療情報管理室) 薬剤部 放射線部	診療録等の病歴資料は外来・入院別に1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し、入院が原本10年、10年以上経過後は光ファイリング化及び外来が最終来院日より10年間の保存を原則としている。エックス線写真は最終来院日より7年、死亡患者については5年の保存を原則としている。これらは、コンピュータによる集中管理を行っている。	
病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書				
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	/	
	高度の医療の提供の実績	病院管理課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課		
	高度の医療の研修の実績	総務課		
	閲覧実績	医療サービス課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課及び薬剤部		
	確保の状況	規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制		医療安全管理部
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況		感染制御部
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況		医療サービス課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療安全管理部
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全管理部		
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部			
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部			

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 柏木 厚典
閲覧担当者氏名	医療サービス課長 一井 信吾
閲覧の求めに応じる場所	病院小会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	56.5 %	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		10,256 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,570 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,607 人
	D：初診の患者の数		27,567 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式13-2)

規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> (2名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> (1名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
<p>・ 所属職員： 専任 (3) 名 兼任 (16) 名</p> <p>・ 活動の主な内容： 医療事故防止及び感染予防対策の推進に関すること、医療安全管理委員会及び感染予防対策委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること、インシデント報告の調査及び分析に関すること、安全管理に関する事例、対策等の情報収集に関すること等</p> <p>(別添 「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部規程」 「滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部規程」 参照)</p>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
<p>・ 指針の主な内容： 医療安全管理に関する基本的な考え方、医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本事項、医療安全管理のための職員研修に関する基本方針、報告等に基づく医療に係わる安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針、医療事故発生時の対応に関する基本方針、患者からの相談に対する基本指針、患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針等</p>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容： 発生した医療事故の患者及び家族等への対応に関すること 医療事故に係る公的機関への報告及び公表に関すること 医療事故防止対策の企画立案に関すること 安全管理指針の策定に関すること 医療事故防止マニュアルに関すること 医薬品業務手順書の策定に関すること 医療事故報告書の事故状況等の分析に関すること。</p> <p>(別添 「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程」 参照)</p>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の主な内容： 講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</p>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。 毎月の重要なインシデント及びその対策について、各部署リスクマネージャーが周知し、情報の共有を図っている。院内ラウンドによるチェックを行っている。</p>	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本的事項 院内感染対策のための従業員研修に関する基本方針 院内感染発生時の対応の基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>感染予防対策の企画立案に関すること 感染予防対策マニュアルに関すること 感染源の調査に関すること 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること等 感染予防対策の企画立案に関すること</p> <p>〔 別添「滋賀医科大学医学部附属病院感染予防対策委員会規程」 「滋賀医科大学医学部附属病院感染対策チーム内規」 参照 〕</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載及び学内メールへにより、職員に周知している。</p> <p>感染対策チーム委員会において感染症の発生状況及びその対策について、検討し、各部署の感染リンクスタッフに周知し、情報の共有化を図っている。実施状況の院内ラウンドによるチェックを行っている。</p>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>9月3日（水）糖尿病治療（インスリン製剤に関するインシデント、インスリン製剤の特性、インスリン療法の実際）</p> <p>1月13日（火）抗がん剤の取扱い（がん化学療法のレジメン登録制、抗がん剤の管理と廃棄、注射薬抗がん剤の安全な調製方法）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有 ・ 無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>9月 手順書に準じた業務実施状況の確認。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>・ 医薬品添付文書情報は、改定の都度、メーカーに請求するとともに、処方オーダーシステム内の添付文書情報も逐次更新している。（オーダー時、参照可能）</p> <p>・ 3月に院内医薬品集（第12版）を出版する。</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工呼吸器の基礎と使用について ・ 輸液ポンプ、シリンジポンプについて ・ キャリカポンプの安全使用と基礎知識 ・ 患者モニターの安全使用と基礎知識 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の策定 (有 ・ 無) ・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工呼吸器は、メーカーによる定期点検と院内CE点検 ・ 輸液ポンプ、シリンジポンプは、メーカーによる定期点検とCE点検 ・ 除細動器等は、主に院内点検を中心に行っている 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット情報 医薬品医療機器統合機構メール配信 厚生労働省及び近畿厚生局のホームページ ・ メーカーによる情報 各メーカーからの情報提供 ・ 臨床工学技士会ネット情報 	

滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部規程

平成16年4月1日制定

平成21年4月1日改正

(趣旨)

第1条 この規程は、滋賀医科大学医学部附属病院規程第13条第6項の規定に基づき、医療安全管理部（以下「安全管理部」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 安全管理部は、病院における医療事故の防止による医療の安全性の向上を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 安全管理部に次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 部長
- (2) 副部長
- (3) ゼネラルリスクマネジャー（以下「GRM」という。）
- (4) 教員及び医療技術職員 若干名
- (5) 病院管理課長
- (6) 医療サービス課長
- (7) 病院管理課職員 若干名

2 部長は、副病院長（総括・リスクマネジメント担当）をもって充てる。

3 部長は、安全管理部の業務を統括する。

4 副部長は、GRMをもって充てる。ただし、部長が、GRMとは別に副部長を必要と認めた場合は、部長の推薦を経て病院長が指名することができる。

5 副部長は、部長を補佐し、部長に事故あるときは、あらかじめ部長が指名した副部長がその職務を代行する。

6 GRMは、安全管理部の専任教員及びリスクマネジメント担当の専任看護師長をもって充てる。

7 GRMは、部長の命を受け安全管理部の所掌業務を処理するほか、リスクマネジャーの指導、医療安全管理委員会との連絡調整を行う。

8 教員及び医療技術職員は、部長の命を受け、安全管理部の業務に従事する。

9 病院管理課職員は、部長の命を受け、安全管理部の事務に従事する。

(業務)

第4条 安全管理部の業務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 医療事故防止の推進に関すること。
- (2) 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。
- (3) インシデント報告の調査及び分析に関すること。
- (4) 医療事故防止に関する事例、対策等の情報収集に関すること。

- (5) 医療事故防止に係る教育，研修等の企画及び実施に関すること。
- (6) 医療事故防止に関する院内巡視，記録等の点検及び評価に関すること。
- (7) 医療事故防止に関するマニュアルの作成に関すること。
- (8) 医療事故防止に関する広報・啓発活動に関すること。
- (9) リスクマネジャーの会議等に関すること。
- (10) その他医療事故防止に関すること。

2 安全管理部は，医療事故等が発生した場合において，「医療事故発生時における対応指針」（平成12年7月19日制定）及び「滋賀医科大学医学部附属病院医療事故等発生時の報告に関する取扱要項」（平成15年5月21日制定）を踏まえ，関係委員会と連携し，対応するものとする。

（インシデント検討会）

第5条 安全管理部に，インシデントの再発防止策を検討するため，インシデント検討会を置く。

2 インシデント検討会の組織及び運営に関し必要な事項は，安全管理部が別に定める。

（リスクマネジャー会議）

第6条 安全管理部に，医療事故防止のための検討事項及び具体的な改善計画等の情報を伝達するため，リスクマネジャー会議を置く。

2 リスクマネジャー会議について必要な事項は，安全管理部が別に定める。

（ワーキンググループ）

第7条 部長が必要と認めたときは，安全管理部にワーキンググループを置くことができる。

2 ワーキンググループについて必要な事項は，安全管理部が別に定める。

（その他）

第8条 この規程に定めるもののほか，安全管理部の運営に関し必要な事項は，安全管理部が別に定める。

附 則

この規程は，平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成18年4月18日から施行し，平成18年4月1日から適用する。

附 則

この規程は，平成19年4月17日から施行し，平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は，平成19年5月15日から施行する。

附 則

この規程は，平成20年6月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成21年4月1日から施行する。

滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部規程

平成20年6月1日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、滋賀医科大学医学部附属病院規程第13条第6項の規定に基づき、感染制御部の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 感染制御部は、病院における院内感染予防対策に関する業務を円滑に遂行することを目的とする。

(組織)

第3条 感染制御部に次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 部長
- (2) 副部長 若干名
- (3) インфекションコントロールドクター (ICD) 若干名
- (4) 感染管理看護師 (ICN) 若干名
- (5) 教員及び医療技術職員 若干名
- (6) 病院管理課長及び医療サービス課長

2 部長は、臨床医学講座若しくは病院の教員のうちより病院長が指名する。

3 部長は、感染制御部の業務を統括する。

4 副部長は、病院の関係職員より部長の指名を経て、病院長が委嘱する。ただし、副部長のうち1名は専任感染管理看護師をもって充てる。

5 副部長は、部長を補佐し、部長に事故あるときは、その職務を代行する。

6 第1項第3号から第5号までの職員は、部長の命を受け、感染制御部の業務に従事する。

(業務)

第4条 感染制御部の業務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 感染予防対策の推進に関すること。
- (2) 感染予防対策委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。
- (3) 感染予防対策マニュアルの作成及び改訂に関すること。
- (4) 感染予防対策マニュアルに基づく実施状況の点検に関すること。
- (5) 院内感染発生時における感染の制御及び原因究明に関すること。
- (6) 感染予防対策の教育、研修等の企画及び実施に関すること。
- (7) その他感染予防対策に関すること。

(感染対策チーム)

第5条 感染制御部に、具体的な感染予防対策を実施するために、感染対策チームを置く。

2 感染対策チームの組織及び運営に関し必要な事項は、感染制御部が別に定める。

(感染リンクスタッフ)

第6条 感染予防対策の活動を支援するため、各診療科、各病棟及び中央診療部各部に次の各号に掲げる感染リンクスタッフを置く。ただし、やむを得ない事由がある場合は、この限りでない。

- (1) 各診療科の長から推薦された教員
- (2) 各病棟及び中央診療部各部の看護師長から推薦された看護職員
- (3) 中央診療部各部の長から推薦された教員又は医療技術職員

2 感染リンクスタッフは、部長が指名し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 欠員により補充された感染リンクスタッフの任期は、前任者の残任期間とする。

(ワーキンググループ)

第7条 部長が必要と認めたときは、感染制御部にワーキンググループを置くことができる。

2 ワーキンググループについて必要な事項は感染制御部が別に定める。

(事務)

第8条 感染制御部の事務は、病院管理課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、感染制御部の運営に関し必要な事項は、感染制御部が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成20年6月1日から施行する。

2 この規程施行後、最初に指名される第6条の感染リンクスタッフの任期は、同条第2項本文の規定にかかわらず、平成22年3月31日までとする。

滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程

平成16年4月1日制定

平成20年6月1日改正

(設置)

第1条 滋賀医科大学医学部附属病院（以下「本院」という。）に、本院における医療事故の防止に関する基本的事項を審議するため、医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 医療事故防止対策の企画立案に関すること。
- (2) 医療事故報告書の事故状況等の分析に関すること。
- (3) 医療事故の防止に係る教育及び研修に関すること。
- (4) 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること。
- (5) 医薬品業務手順書の作成又は変更に関すること。
- (6) 医療事故防止マニュアルに関すること。
- (7) 医療事故に係る公的機関への報告及び公表等に関すること。
- (8) 発生した医療事故の患者及び家族等への対応に関すること。
- (9) その他医療事故、医事紛争及び訴訟に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
 - (2) 副病院長（総括・リスクマネジメント担当）
 - (3) 医療情報部長
 - (4) 感染制御部長
 - (5) 臨床医学講座及び病院の教員（前号に掲げる者を除く。） 若干名
 - (6) 医薬品安全管理責任者
 - (7) 医療機器安全管理責任者
 - (8) 副看護部長 1名
 - (9) ゼネラルリスクマネジャー
 - (10) 病院管理課長
 - (11) その他委員長が必要と認める者
- 2 前項第5号及び第11号の委員は、病院長が委嘱し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 第1項第6号の委員は、看護部長の推薦により病院長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、病院長をもって充て、副委員長は、副病院長（総括・リスクマネジメント担当）をもって充てる。

3 委員長は、委員会を召集しその議長となる。

4 副委員長は、委員長の職務を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

5 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の委員会への出席を求めて、説明又は意見を聴くことができる。

(医療事故調査委員会)

第6条 委員会に、重大な医療事故が発生した場合における事故原因の調査究明及び必要な対応策について審議するため、必要に応じ医療事故調査委員会を置く。

2 医療事故調査委員会について必要な事項は、別に定める。

(事務)

第7条 委員会の事務は、医療安全管理部において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年9月18日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年6月1日から施行する。

滋賀医科大学医学部附属病院感染予防対策委員会規程

平成16年4月1日制定

平成20年6月1日改正

(設置)

第1条 滋賀医科大学医学部附属病院（以下「本院」という。）に、本院における感染予防対策について検討するため、感染予防対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 感染予防対策の企画立案に関すること。
- (2) 院内感染対策のための指針の策定及び変更に関すること。
- (3) 感染予防対策マニュアルに関すること。
- (4) 感染予防対策に係る監視及び指導に関すること。
- (5) 感染源の調査に関すること。
- (6) 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること。
- (7) その他感染予防対策に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
- (2) 副病院長（総括・リスクマネジメント担当）
- (3) 副病院長（経営・管理担当）
- (4) 感染制御部長
- (5) 感染対策チーム長
- (6) 産業医
- (7) 薬剤部長
- (8) 検査部長
- (9) 看護部長
- (10) 専任感染管理看護師
- (11) 病院管理課長
- (12) その他委員長が必要と認める者

2 前項第12号の委員は、病院長が委嘱し、その任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長3名を置き、委員長は病院長をもって、副委員長は副病院長（総括・リスクマネジメント担当）、副病院長（経営・管理担当）及び感染制御部長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 4 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の委員会への出席を求めて、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、病院管理課において処理する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月17日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年9月18日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年6月1日から施行する。

滋賀医科大学医学部附属病院感染対策チーム内規

平成20年6月1日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部規程第5条第2項に基づき、感染対策チーム（以下「ICT」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(業務)

第2条 ICTの職員は、感染制御部長の命を受け、次の業務を行う。

- (1) 感染予防対策マニュアルに基づく実施状況の点検に関すること。
- (2) 院内感染発生時における感染の制御に関すること。
- (3) 感染予防対策の教育に関すること。
- (4) 感染予防対策の実施に係る監視及び調査に関すること。
- (5) その他感染予防対策に関すること。

(組織)

第3条 ICTは、次の各号に掲げる職員をもって組織する。

- (1) インфекションコントロールドクター（ICD） 若干名
- (2) 診療科の教員 若干名
- (3) 臨床検査技師 若干名
- (4) 薬剤師 若干名
- (5) 看護師長及び副看護師長 若干名
- (6) 感染管理看護師 若干名
- (7) 病院管理課職員 若干名
- (8) その他第4条第1項に規定するチーム長が必要と認める者

2 前項の職員は、感染制御部長の推薦に基づき、病院長が委嘱し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 欠員により補充された職員の任期は、前任者の残任期間とする。

(チーム長及び副チーム長)

第4条 ICTにチーム長及び副チーム長を置き、前条第1項に掲げる職員のうちから、チーム長については感染制御部長が、副チーム長についてはチーム長が指名する。

2 チーム長は、必要に応じICTを召集し、第2条に掲げる業務を行う。

3 副チーム長は、チーム長を補佐し、チーム長に事故があるときは、その職務を代行する。

4 チーム長は、活動状況を必要に応じ感染制御部長に報告するものとする。

(事務)

第5条 ICTの事務は、病院管理課において処理する。

(雑則)

第6条 この規程に定めるもののほか、ICTの運営に関し必要な事項は、ICTが別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年6月1日から施行する。
- 2 滋賀医科大学医学部附属病院感染対策チーム規程（平成19年4月17日制定）は、廃止する。